

AHW018-11

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月28日11:45-12:00

## 放牧草地における土壌侵食の特徴

### Characteristics of soil erosion on grazing pastures

中尾 誠司<sup>1\*</sup>, 山本 博<sup>1</sup>

Seiji Nakao<sup>1\*</sup>, Hiroshi Yamamoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>畜産草地研究所(農研機構)

<sup>1</sup>NILGS, NARO

わが国では、1960年代から大規模草地開発が進められ、現在、全国で約900の公共牧場が存在している。これら公共牧場の多くが傾斜地に立地しており、造成後、長い年数を経過して、土壌侵食など土壌保全上の問題も顕在化してきている。しかし、その実態は十分に把握されておらず、土壌侵食実態やその特徴を明らかにすることは、草地における環境保全技術を開発する上でも重要である。

本研究では、北関東地域の2カ所の公共牧場において、草地の地形、リル・ガリの規模・分布、牛道の分布などの実態を把握した。また、SH土壌貫入計を用いて、土層の硬度分布を計測し、ガリ侵食と土層状態との関連性を検討した。

その結果、ガリ侵食は、牧区の低位部で降雨流出水の流末となる領域や、放牧牛による牛道の形成が顕著な牧柵沿いなどで発達が著しかった。また、土壌硬度分布調査の結果、ガリ底と土壌硬度の高い層の深さが概ね一致する断面や、ガリ深は2m近くに及ぶが、強固な層はさらに深いところに存在する断面などが見られた。草地におけるガリ侵食の規模は、表面流去水量、地形(勾配など)、土壌特性、家畜管理などはもとより、風化・未風化層などの地下の土層構造が密接に関係していることなどが明らかとなった。

キーワード:放牧草地,土壌侵食,ガリ侵食

Keywords: Grazing pasture, Soil erosion, Gully erosion